

平成 27 年度
高校生の建設業に関する調査結果
(現場体験セミナー)

一般社団法人徳島県建設業協会

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

現場体験セミナーに参加した建設系学科に属する生徒の建設業へのイメージや建設業への入職の希望等について把握することで、今後の新規学卒若年建設従事者の入職促進に寄与することを目的としてアンケート調査を実施。

(2) 調査の対象・日時

平成 27 年 11 月 10 日に実施した「高校生の建設現場体験セミナー」に参加した「徳島県立徳島科学技術高等学校、環境土木コース（2 年生）の 27 人を対象に調査を実施。

(3) 有効回答数

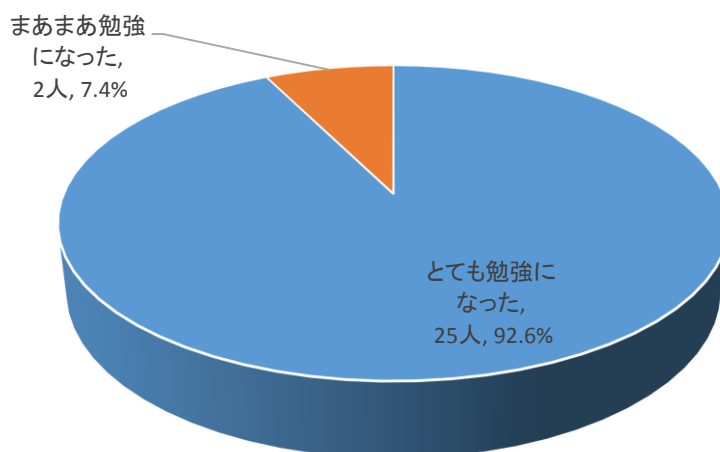
27 サンプル。



2. 体験セミナーについての調査結果

(1) 現場体験セミナーの感想

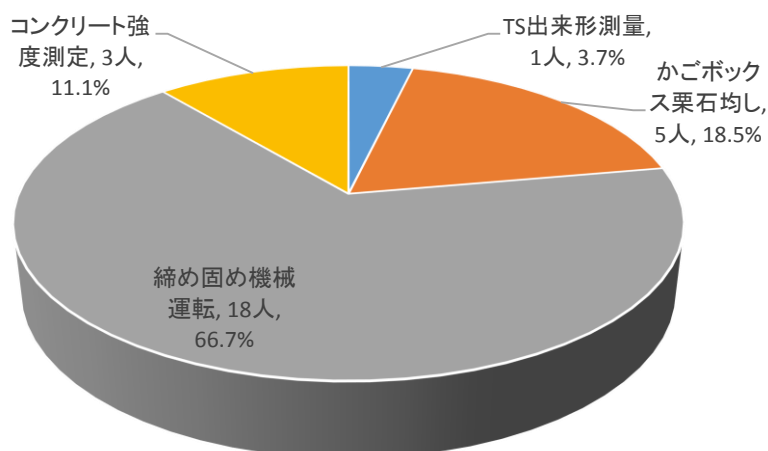
現場体験セミナーの感想については、「とても勉強になった」が 25 人 (92.6%)、「まあまあ勉強になった」が 2 人 (7.4%) となっている。



グラフ-1 体験セミナーの感想

(2) 一番勉強や参考になった体験

上記(1)において、体験セミナーが“勉強になった”と回答した 27 人の、最も、勉強や参考になった体験については、「締め固め機械運転体験」が 18 人 (66.7%) で最も多く、次いで、「かごボックス栗石均し」が 5 人 (18.5%)、「コンクリート強度測定」が 3 人 (11.1%) の順である。

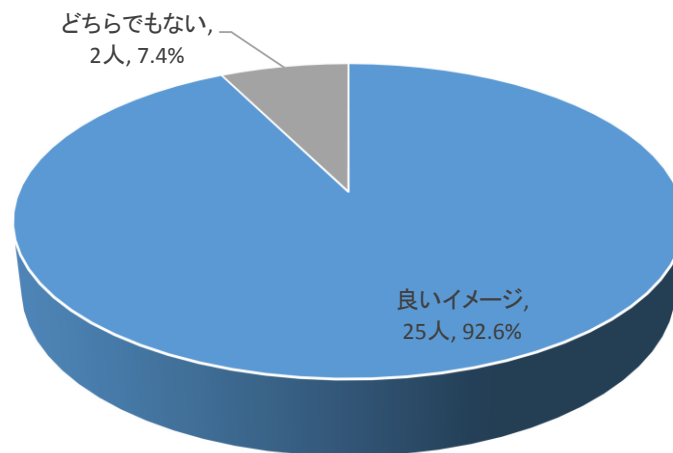


グラフ-2 最も勉強や参考になった体験の種類

3. 建設業に対するイメージや印象についての調査結果

(1) 建設業に対するイメージや印象について

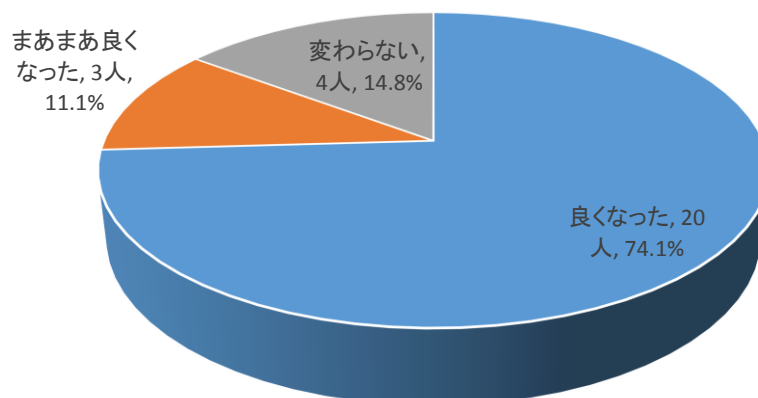
建設業に対するイメージや印象については、「良いイメージを持っている」が 25 人（92.6%）、「どちらでもない、よくわからない」が 2 人（7.4%）である。



グラフ-3 建設業に対するイメージや印象

(2) 体験セミナー参加による建設業に対するイメージの変化について

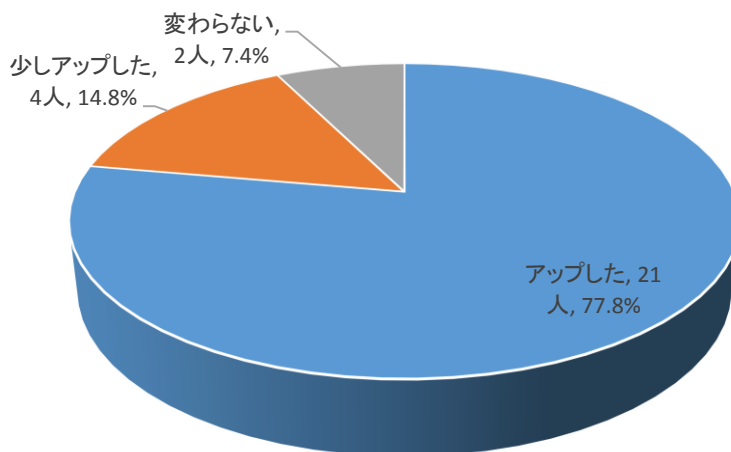
体験セミナーに参加したことによる、建設業に対するイメージの変化については、「良くなった」が 21 人（77.8%）、「まあまあ良くなった」が 4 人（14.8%）と、85%以上が建設業に対するイメージが良くなったとの回答である。



グラフ-4 建設業に対するイメージの変化

(2) 体験セミナー参加による建設業に対する関心の変化について

体験セミナーに参加したことによる、建設業に対する関心の変化については、「アップした」が21人(77.8%)、「少しアップした」が4人(14.8%)と、90%以上が建設業に対する関心がアップしたとの回答である。



グラフ-5 建設業に対する関心の変化

また、前述の“建設業に対するイメージや印象について”の質問に「どちらでもない」と回答した2人の建設業へのイメージや印象の変化については、1人が、体験セミナーに参加したことで、建設業に対するイメージや関心がアップしたと回答している。

体験セミナー参加者は、土木系の学科で学ぶ生徒であり、元々、建設業に対して悪いイメージは持っていないことが推測されることから、後述する“若い人が建設業に魅力を感じるために必要な取り組み”の結果にも反映されているように、体験セミナーやインターンシップのように実際に現場や作業を体験する機会を増やすことで、さらなるイメージや印象、関心度のアップに繋がるものと考えられる。

【建設業に対するイメージが良くなった理由（記述回答）】

<知識や経験のアップ>

- 小さい時から建設業に興味があり、そこそこの知識はあったけど、今回のセミナーで自分の知らないものが色々あって、興味をそそられたから。
- もともと関心はあったが、今回の体験セミナーに参加したことで、色々な仕事や機械のことが知れたので、もっと関心を持つことができた。
- 建設業関係に就職したいので、知識が深まり、ためになったから。
- 実際に作業を体験してすごさを感じたから。
- もともと建設業に興味があり、さらにやる気がでた。
- 本当の現場で実際にやっていることが具体的に分かったから。
- 実際に作業を体験して、とてもやりがいのある仕事と思ったから。（3人）
- 作業を体験して、想像よりきつくなさく、むしろ楽しいという気持ちが大きくなった。
- 自分が関わっている構造物が、地域の安全などに役立っているから。
- 作業を体験することで、このような仕事の1つ1つが人のためになっていくと思ったから。
- 力仕事だけでなく細かい仕事もしていたから。

<楽しかった！>

- 重機に乗って運転したり、かごボックスの中に石を入れたりして楽しかったから。（3人）
- 実際に使われている機械を動かしたり、見たりすることができたから。
- 学校で乗れない機械に乗れたから。

<現場の雰囲気がいい！・いい人が多い！>

- 現場の雰囲気が良かったから。現場にいい人が多かったから。（7人）
- もっと堅苦しい人ばかりと思っていたが、とても面白くて話しやすい人がたくさんいたから。



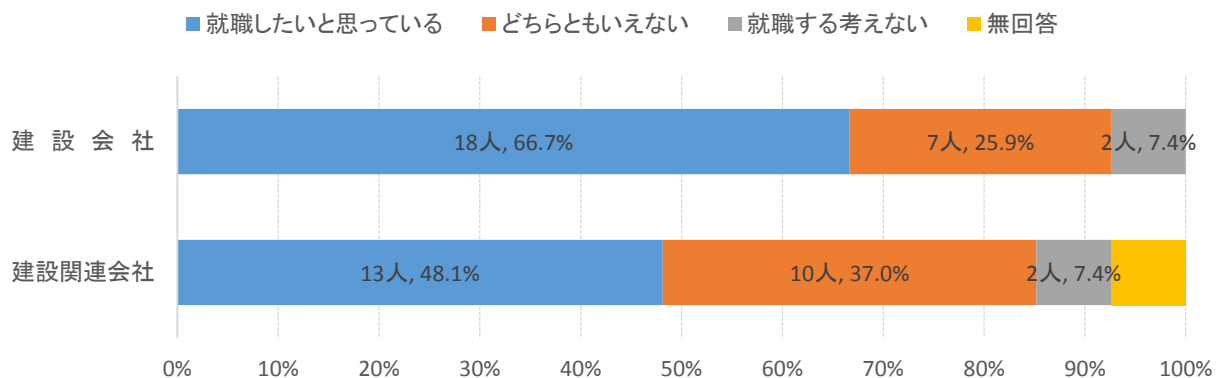
4. 建設会社や建設関連会社への就職についての調査結果

(1) 建設（建築）会社や建設関連会社への就職について

まず、建設会社や建築会社への就職希望についてみると、「就職したいと思っている」が 18 人（66.7%）、「どちらともいえない」が 7 人（25.9%）となっている。

一方、「就職する考えはない」が 2 人（7.4%）であり、その理由は「製造業に就職したい」「進学したい」となっている。

次に、建設関連会社への就職希望については、「就職したいと思っている」が 13 人（48.1%）、「どちらともいえない」が 10 人（37.0%）である。



グラフ-6 建設（建築）会社や建設関連会社への就職希望

(2) 体験セミナー参加による建設会社への就職希望の変化

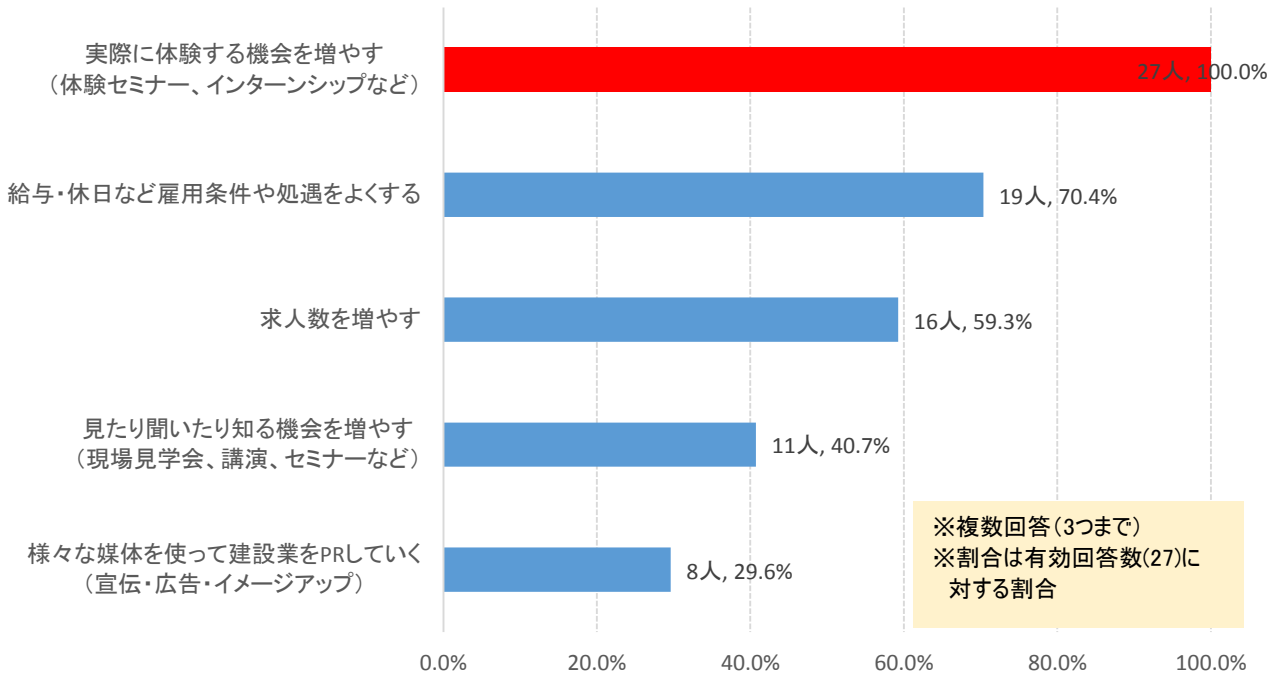
先の建設会社への就職希望について、「どちらともいえない」と回答した 7 人の、体験セミナーに参加したことによる建設会社への就職希望の変化についてみると、7 人全員が「これから建設業も就職先の選択肢として考えてみたい」と回答している。

表-1 体験セミナー参加による建設会社への就職希望の変化

	就職したいと思っている (回答数18)	どちらともいえない (回答数7)	就職する考えない (回答数2)
もともと建設業に就職しようと考えている	18	-	-
これから建設業も就職先の選択肢として考えてみたい	-	7	0
就職しようと思わなくなった	0	0	-
もともと建設業に就職しようと考えていない	-	-	2

(3) 若い人が建設業に魅力を感じ就職したいと思うために必要な取り組み

高校生など若い人が建設業に魅力を感じ、就職したいと思うために必要な取り組みについては、体験セミナーやインターンシップのような「(作業等を)実際に体験する機会を増やす」が 27 人で最も多く、次いで、「給与・休日など雇用条件や処遇をよくする」が 19 人、「求人数を増やす」が 16 人の順となっている。



グラフ-7 若い人が建設業に魅力を感じるために必要な取り組み